

短報 Short Communication

2001-2006年に鳥取県日野川および塩川で拾得された
オオサンショウウオ *Andrias japonicus* の死体の記録

岡田 純¹・一澤 圭²・川上 靖²

¹〒690-8504 松江市西川津1060 島根大学生物資源科学部環境生物学講座

²〒680-0011 鳥取市東町2-124 鳥取県立博物館

¹E-mail: shichibu@mocha.ocn.ne.jp

[受領 Received 20 January 2008 / 受理 Accepted 6 February 2008]

Records of dead Japanese giant salamanders *Andrias japonicus* from the Hino and
the Shiokawa Rivers between 2001 and 2006, Tottori Prefecture, Japan

Sumio OKADA¹, Kei ICHISAWA² and Yasushi KAWAKAMI²

¹Division of Environmental Biology, Faculty of Life and Environmental Science, Shimane University,
1060 Nishikawatsu, Matsue, 690-8504 Japan

²Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan

Abstract: We found and collected a total of six dead bodies of giant salamander *Andrias japonicus* from the Hino and Shiokawa Rivers (5 and 1 salamanders, respectively), Tottori Prefecture, Japan. Of these, two bodies were larvae (one larva was regurgitated by a live adult salamander and the other was found on a concrete wall along a stream). The other four bodies were adults: one was found on the sandy coast near the Shiokawa River's estuary after a flood, and the other three were found on land around streams. These observations suggest that *A. japonicus* experience mortality through accidents (e.g., road kill) and by being captured and consumed by terrestrial predators during overland movements. These specimens are preserved in the Tottori Prefectural Museum.

Keywords: Japanese giant salamander, *Andrias japonicus*, dead body, Tottori Prefecture

はじめに

オオサンショウウオ *Andrias japonicus* は、岐阜県以西の本州・四国・九州の一部に分布し、鳥取県では、中・西部を流れる天神川・日野川流域を中心に県下の広い範囲から記録されている(中島 2002)。オオサンショウウオは国の特別天然記念物に指定され、保護されているが、生息環境の悪化により絶滅の危機が増大しており、2006年に改訂された環境省レッドリスト(環境省 2006) および鳥取県レッドリスト(中島 2002) の絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

本種は変態後も水中で生活し、普段は石の下や川岸の穴等に潜んでいる(栃本 1996)。このような生活史のためか、オオサンショウウオの死体が野外で発見されることは稀である。栃本(1995)は19年間におよび生息調査(110日の夜間調査, 209日の昼間の調

査)で8個体のオオサンショウウオの死体を確認している(うち5個体は闘争による頸部咬傷, 3個体は死亡原因不明)。そのほかに、河川工事による死亡事故(Matsui and Hayashi 1992)、釣り人による殺傷(栃本 2004)が報告されている。鳥取県内では、本種の保護記録(鳥取県教育委員会文化課に集積されているものは1979年から1999年に235件報告されている(野村 1988, 2001; 山本・野村 1993))。しかし、この中で本種の死体に関する記録は、鳥取市湖山池からエビ漁網にかかった死体(野村 1988)の1例のみである。1959年の伊勢湾台風直後に東伯郡北条町(現在の北栄町)の砂浜海岸で発見された死体の記録(生駒 1960)と合わせても本種の死体の報告は、県内で2例しかない。オオサンショウウオの死体は貴重な標本資料になるだけでなく、過去の報告例(例えば、生駒 1960; 栃本

1995, 2004) が示しているように、死体がいつ、どのような状況で発見されたのか記録することで、本種の生活史の解明や保全に役立つ情報が得られると考えられる。

今回、鳥取県西部の日野川およびこれに近接する塩川において2001年から2006年に計6個体、オオサンショウウオの死体が発見されたので報告する。

発見された死体の取り扱いについて

オオサンショウウオは国の特別天然記念物に指定されており、文化財保護法により保護されている。そのため文化庁長官の許可なく、捕獲、採集（現状の変更）することは禁じられている（幸丸 2001a）。しかし、個体が死亡した時点で天然記念物ではなくなるので、死体を採集することは可能である（幸丸 2001b）。ただし、本種は国際希少野生動植物種に指定されており、生体、死体、体の一部であっても所有者を変更することは禁じられている（譲渡の禁止）。今回発見された死体については、拾得された経緯を明確にするために所轄の教育委員会を通じ文化庁に届け出ている（滅失届け）。

事例 1

日時：2001年9月30日 午後10時35分

場所：鳥取県日野郡日南町新屋 日野川（図1-地点1）

発見時の状況および個体データ：著者の一人岡田が日野川で行ったオオサンショウウオの生息調査で捕獲した個体（全長47.5cm・体重838g・雄）がサワガニと共に全長約20cmの本種幼生の死体を吐き出した（表1, 図2）。死体の表皮は頭部から腰にかけてほぼ消化され、特に腹壁は消化が進んでおり、腸が露出している状態であった（図2）。幼生の胃には未消化の内容物があり、サワガニ、ヨコエビ科の1種、ヤゴ（オニヤンマ）、ミミズ綱の1種、チョウ目幼虫、植物片、石、デトリタスが得られた。幼生および胃内容物は、10%ホルマリンで固定され、鳥取県立博物館で保管されている。

事例 2

日時：2003年6月30日 正午頃

場所：鳥取県日野郡日南町旧新屋 日野川周辺の休耕地（図1-地点2）

発見時の状況および個体データ：トビ *Milvus migrans* が掴んでいたオオサンショウウオを落とすのを目撃した（表1）。オオサンショウウオ（死体）の皮膚はかなり乾燥し、硬くなっていたが、目立った外傷は見られなかった。死体の全長は約50cm。発見地点は林道沿い

の休耕地で、オオサンショウウオの生息する小河川（日野川の支流）から約30m離れていた。休耕地周辺はスギ植林および落葉広葉樹林であった。死体は現地に埋めた後、骨の一部が回収され、鳥取県立博物館で保管されている。

事例 3

日時：2004年8月7日 午後6時

場所：鳥取県日野郡日南町新屋 日野川の護岸（図1-地点3）

発見時の状況および個体データ：コンクリート護岸の上（高さ約1.5m）で死亡しているオオサンショウウオの幼生（約15cm）を発見した（表1）。オオサンショウウオの死体をスズメバチ2個体が食べており、死体の胸背面から前肢・頸部にかけて骨が露出している状態であった（図3, 4）。前日夕方にこの場所を訪れた時には、この死体はなかった。発見場所の周辺は水田および住宅地であった。死体は10%ホルマリンで固定され、鳥取県立博物館で保管されている。

事例 4

日時：2004年8月19日 午後4時頃

場所：鳥取県日野郡日南町新屋フロノ上 畑周辺の草地（図1-地点4）

発見時の状況および個体データ：畑でオオサンショウウオが死亡しているとの連絡を受けた。二日後の8月21日に川（日野川支流の野組川、高さ約2mの護岸あり）から約10m離れた畑の草地で全長約50cmのオオサンショウウオを確認した（表1, 図5, 6）。死体は腐敗が進み激しい腐敗臭を放っており、ハエ目幼虫が大量についていた。死体は10%ホルマリンで固定され、鳥取県立博物館で保管されている。

事例 5

日時：2005年5月28日 午前8時頃

場所：鳥取県日野郡日野町近江 近江橋（図1-地点5）

発見状況および個体データ：日野川に架かる近江橋の路上（左岸付近）でオオサンショウウオが死んでいるとの連絡を当日早朝に受け、死体（全長48cm, 雌）を確認した（表1）。死体は明らかに車に轢かれた跡があり（図7, 8）、頭骨は砕け、尾の基部付近は裂けており、未熟の卵巣卵約100個が半径約50cmの範囲に飛び散っていた。また、死体の皮膚や卵はまだ湿っていた。橋から川面までの距離は約7m, 川幅は約50mある。死体から釣り針などの異物は確認されなかった。死体は10%ホルマリンで固定され、鳥取県立博物館で保管

されている。

事例6

日時：2006年7月22日 午前9時頃

場所：米子市淀江町西原1377付近の砂浜海岸 塩川河口付近（図1-地点6）

発見時の状況および個体データ：大雨で流れ出た漂着ゴミの回収作業をしていた米子市職員がオオサンショウウオの死体（全長約100cm）を発見した（表1, 図9, 10）。最寄りの米子市測候所では、7月16日から18日の三日間で352mmの降水量が記録されている。死体は冷凍され、鳥取県立博物館で保管されている。

表1 2001-2006年に日野川および塩川で拾得されたオオサンショウウオの死体6個体の記録

地点	発見日	発見場所	発見時の状況
1	2001年9月30日	日南町新屋日野川	オオサンショウウオ成体（全長47.5cm）が幼生（全長約20cm）を吐き出した（共食い）
2	2003年6月30日	日南町旧新屋日野川支流周辺	休耕地でトビがオオサンショウウオの死体（全長約50cm）を落とすのが目撃された
3	2004年8月7日	日南町新屋日野川	コンクリート護岸の上で幼生（全長約15cm）の死体が発見された
4	2004年8月19日	日南町新屋日野川支流周辺	畑周辺の草地で腐乱死体（全長約50cm）が発見された
5	2005年5月28日	日野町近江日野川	日野川に架かる橋の上で轢死体（全長48cm, 雌）が発見された
6	2006年7月22日	米子市淀江町塩川河口	河口付近の砂浜海岸で打ち上げられた死体（全長約100cm）が発見された

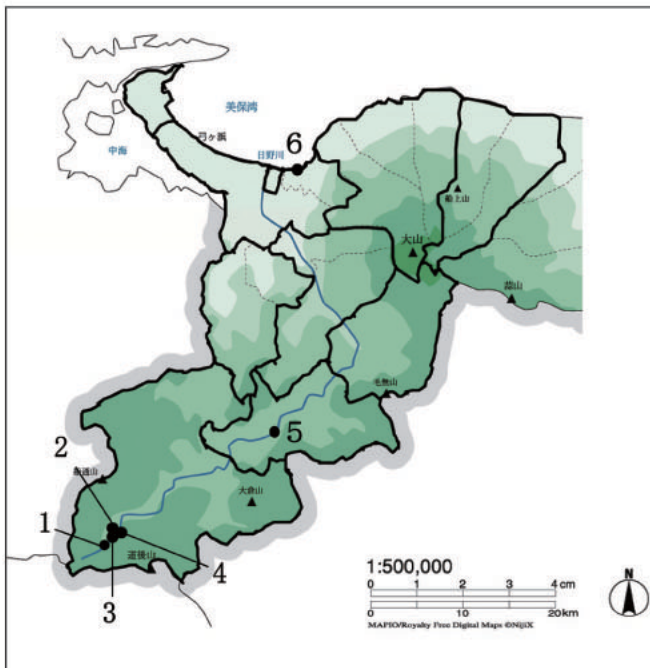


図1. オオサンショウウオの死体が発見された地点

地図の地点番号と表1および本文の地点（事例番号）は対応している。



図2. オオサンショウウオ成体から吐き出された幼生（事例1）



図3. 護岸の上で発見されたオオサンショウウオ幼生の死体（事例3）